

# 基礎基本の定着を目指して

## — 小中連携を利用した朝学習 —

前台中日本人学校 教諭

兵庫県小野市立小野中学校 教諭 吉 岡 秀 晃

キーワード：朝学習，算数（数学），基礎（基本）の定着と習得

### 1. はじめに

台中日本人学校では、基礎・基本委員会が「算数・数学科における基礎・基本的事項の確実な習得と定着を図ること」をねらいとして平成14年度に設置された。それ以降、算数・数学科だけではなく、国語科での基礎・基本事項の習得にも目を向け、朝学習を中心とした具体的な取組や教師による授業研修を行ってきた。

本委員会では、重点教育目標の一つである「一人ひとりの子どもに基礎的・基本的な事項の確実な定着を図る取組を推進する」に向けて、朝学習を軸とした実践を積むこととした。

### 2. 活動の実践

#### (1) ねらい

- ・計画的、継続的な学力補充により、基礎学力の定着や基本的事項の習得を図る。

#### (2) 取組

##### ①算数・数学科における児童生徒の実態の把握

##### ア 小学部3年「算数科」の実態

- ・意欲的に学習に取り組む児童が多い。
- ・「数と計算」の領域では、数の意味や基礎的な計算など全般的によくできている。計算コンテストでは、ほとんどが90%を取ることができている。しかし、少数だが、個別支援の必要な児童もいる。
- ・「量と測定」の領域では、長さの測定は楽しく学習していた。水のかさの測定も意欲的に学習したが、単位の換算については、理解するのに時間のかかる児童もいた。
- ・「図形」の領域では、長方形と正方形の概念や描き方は理解できた。今年度から移行した円と球についての作図に時間を要した。
- ・「数量関係」の領域では、表やグラフを読み取り、自分の力でグラフを描くことができた。
- ・算数が好きな児童が多く、学習態度もたいへん前向きである。プリントやドリル学習は一人で行うことができる。また、家庭学習や自主学習に熱心に取り組む児童もいる。

##### イ 中学部「数学科」の実態

- ・一つの問題に対して意見を言い、それに対して付け足しや質問を絡めた授業ができるようになっている。
- ・基礎的な計算については、全般的によくできている。昨年までの取組と朝学習での計算練習の成果ともいえる。しかし、中には前学年での学習が定着していない生徒も数名見られる。たとえ10分でも家庭での復習が必要である。
- ・第1学年の中には、四則が混じった計算や（ ）を含む計算で、計算のルールが守られていない生徒が若干いる。
- ・方程式の文章問題の内容が読みとれない生徒も見られる。文章の内容を絵にかくなど、読み取る力をつける必要がある。
- ・関数については、どの学年にも苦手意識をもっている生徒がいる。伴って2つの変わる量の関係を身近に感じ

させる必要がある。

- ・考える時間が少なく、すぐに助けを求める生徒が多い。答えよりそれまでの過程が大切であることを教える必要がある。
- ・規則性や思考を必要とする問題ができていない。知識や理解の不足が見られる。

## ② 朝学習

### ア 目的

授業での内容を繰り返し学習させることで、基礎・基本の定着と習得を図る。

### イ 実施方法

- ・毎週火曜日から金曜日の8時10分～8時25分（15分間）。
- ・A・B週をつくり、主にA週で計算を行っている。

### ウ 運営について

- ・学力補充を必要とする子どもについては担任が個別指導を行う。
- ・個別指導が必要な児童生徒以外については副担任で採点を中心に指導を行う。
- ・課題プリントは個人ファイルに綴じることとする。

### エ 基本となる実施日程

週	教科	ブロック	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
A	算数・数学	小1～小3	基礎計算	既習内容	既習内容	読書
		小4～小6	基礎計算	既習内容	既習内容	読書
		中学部	基礎計算	既習内容	既習内容	読書

### オ 指導体制及び課題作成

- ・小学部、中学部ともに担任と入り込み教師の複数指導によるものとする。

## ③ 計算コンテスト

### ア 目的

- ・児童生徒の実態把握と達成度を確認する。
- ・児童生徒の朝学習に対する意欲を高める。

### イ 実施内容

- ・第1回（小1を除く）  
計算コンテスト週間（前学年3学期に学習した計算練習）
- ・第2回計算  
計算コンテスト週間（1学期に学習した計算練習）
- ・第3回計算  
計算コンテスト週間（2学期に学習した計算練習）

### ウ 問題作成者・採点者

- ・各学年の朝学習課題作成者が作成する。
- ・問題は、それまでに学習した範囲とする。
- ・採点は、担任が行う。

### エ 合格証

- ・合格者（90点以上）には、合格証を発行する。
- ・合格証は、基礎・基本委員会で用意する。
- ・昼休み等を利用して再テストを行い、全員に合格証が行き渡るようにする。

オ 実施までの広報活動

- ・各学級で、担任からコンテストの実施について説明する。
- ・小・中学習委員会において、ポスターを作成する。

カ コンテストの様子



### 3. 基礎・基本の定着と習得を図る取組の具体例（算数・数学科）

①【小学部の様子】～小学部6年生 14名～

ア めざす児童の姿

- ・基本的な計算問題を素早く正確に解くことができる。
- ・自律的な学習姿勢を身に付ける。

イ 実践内容

- ・朝学習の時間を、授業で学習した内容の復習に取組む時間と位置づけ、プリント学習に取組んだ。
- ・授業時間中に必ずノート上で問題を解かせ、チェックした。合格した児童のノートにはシールを貼り、習得できているかどうかを児童自身が把握できるようにした。それを意識して家庭学習にあたらせるようにし、授業での取組と家庭学習とが密接につながるように働きかけた。

ウ 成果と課題

- ・能力差が大きく、朝学習時に課題をやり切れない児童がいた。休み時間を使って取組ませることも多かった。課題作成時に工夫することも考えたい。“絶対全員が取組む基礎問題+余力がある児童が取組む発展問題”という形で課題を用意すると、能力差にかかわらず、全員が同じ姿勢で取組める朝学習になると思う。
- ・朝学習時に、指導に入る教員間で、児童の様子を確認しながら取組めたのがよかった。意識的に教員間のコミュニケーションを取ることで、朝学習時の児童の取組が充実することを実感した。
- ・家庭学習について、明確な基準を打ち出したことによって、児童にとっての目標設定も容易になった。ただ、学習の仕方が定着していない児童も見受けられる。時間を有効に使い、効果的な学習ができるようにするための指導も必要である。「自主」の時間に、そのような“学習下手”な児童について、学習方法から指導していくというような、具体的な手立てを考えていきたい。
- ・ノートをしっかりと使わせるということは、算数に限らず、学習の基礎となる部分だと思う。算数が苦手な児童の中には、乱雑な取組が繰り返されているケースも多く見受けられる。実際、「分数の計算」での約分忘れや、立体の体積を求める際の「縦・横・高さ」の不確かな見極めなどは、雑な取組が影響していることが多かった。こまめにノートチェックをし、丁寧に取組めるように指導していく必要がある。

②【中学部の様子】～中学部1年・2年・3年 27名～

#### ア めざす生徒の姿

- ・基本的な計算問題を確実に解くことができる。
- ・問題や式の意味を読み取り、数量や図形の性質を見出すことができる。
- ・自分の考えをしっかりと伝えたり、友だちの意見をしっかりと聞いたりすることができる。

#### イ 実践内容

##### ・計算練習

(実践例) 既習の内容を中心に、プリントを作成した。個人差があるので、早く終わってしまう生徒用に補助問題を付け加えた。既習内容の定着ができていない生徒には、個別指導を行った。

(授業との連携) 授業の始めに小テストを行った。できた者から手を挙げ、タイムと得点をカードに記入させた。また、観点別得点も記入をさせた。

##### ・文章問題

(実践例) 今年度の研究テーマに「読み取る力」を挙げているので、計算問題に加えて文章問題を数問取り入れた。問題を解くヒントとして自分がイメージをする絵を描くようにアドバイスをした。

(授業との連携) 3年生対象の基礎数学の授業では、基礎の計算問題、規則性を伴う問題にチャレンジさせた。また、アルゴ(数あてカード)、数学パスワード、身近な数学などを取り入れ、興味関心の向上を図った。

昨年度に引き続き、授業や難問に対してすばらしい発言・考えに与える『座布団』というカードをポイント制として渡す取組も行った。

#### ウ 成果と課題

定期テストの表現処理では、次のような結果が得られた。

1年	1学期	期末テスト	80%	2学期	中間テスト	75%	期末テスト	78%
2年	1学期	期末テスト	86%	2学期	中間テスト	82%	期末テスト	78%
3年	1学期	期末テスト	94%	2学期	中間テスト	99%	期末テスト	92%

- ・朝学習も授業の始めの小テストも、生徒は熱心に取組んでいる。
- ・期末テストには、前学年や中間テストの範囲である計算問題も取り入れたため、正解率が中間テストよりも少し低下している。朝学習を利用して、既習内容をしっかりと定着させるようにしていく必要がある。
- ・昨年度に引き続き、授業や難問に対してすばらしい発言・考えに与える『座布団』の導入を行った。問題に対する意欲的な態度はもちろん、思考力を高めることにも役立った。

#### 4. 成果と課題

- ・2人体制で行うことにより、細やかな指導を行うことができた。
- ・計算・漢字コンテストを年2回から3回に増やしたことがよかった。年間を通じて、子どもの意識を高めることもできるし、学力の定着にもつながる。
- ・朝学習の時間になると、落ち着いて、静かに取組むことができた。
- ・国語・数学(算数)を取り出して取組むというのは、在外という環境の中では一つの方法として、とても良いと思う。
- ・朝学習担当者同士で、子どもの実態について共通理解していけるように、定期的に話し合う時間を設定していくことが大切である。